

# ヒトパピローマウイルス(HPV)ワクチンの説明

—本ワクチンは現在勧奨されていません—



静岡県立こども病院 予防接種センター

## 1) HPV 感染症

HPV(ヒトパピローマウイルス)は人の皮膚や粘膜に腫瘤(いぼ)を作ります。通常、経過は良性で、自然に治癒することが多く、人の健康に大きな影響を与えることはありません。しかし、子宮頸部に感染すると一部が悪性化し子宮頸癌に進展します。

## 2) ワクチンの効果

子宮頸癌の原因となる HPV16 型と 18 型を含むワクチン(サーバリックス、ガーダシル)により、子宮頸癌の 6 割を予防できる可能性があります。この 2 型に加え、6 型と 11 型を含むワクチン(ガーダシル)ではさらに尖圭コンジロームの予防効果もあります。

## 3) ワクチンの特徴

HPV を不活化し、アジュバントに吸着させた不活化ワクチンです。

## 4) 接種方法

○10 歳以上の女子に 0.5ml ずつ 3 回、筋肉内注射します。

○スケジュールは、サーバリックスの場合 0、1、6 か月、ガーダシルは 0、2、6 か月です。

## 5) 副反応

80%以上の比率で、注射部位の疼痛、発赤腫脹がみられます。20～50%程度の比率で、疲労、頭痛、筋痛、関節痛、悪心嘔吐などの副反応がみられます。めまいや失神がみられることもあります。まれに注射部位に限局しない、全身性の疼痛、しびれ、脱力などの症状が出現することがあります。

## 6) 接種上の注意点

○部品にゴム製品が使用されており、ラテックスアレルギーがある人は注意が必要です。

○失神することがあるので転倒防止のため座位で接種するなどの注意が必要です。

## 7) 接種後の注意

ワクチン接種後 30 分間は院内にとどまり、様子を観察して下さい。背もたれのある椅子に座って、安静を保ちましょう。接種部位の腫脹、体の発疹、じんましん、気分不良、失神、嘔吐、咳や呼吸困難などの症状が見られたら、直ちに接種した医師か看護師に声をかけて下さい。この間に全く異常が見られなければ看護師にその旨、一声かけて帰宅して下さい。

## 8) 帰宅後の注意

激しい運動はさけて下さい。その他はいつも通りの生活を送ることができます。入浴もさしつかえありませんが、注射した部位をこすらないで下さい。